



橋 戸

令和3年6月30日

学校だより 第4号

練馬区立橋戸小学校

校長 青木 俊哉

今、思うこと…

校長 青木 俊哉

朝出勤すると、何人かの教員が虫取り網を手に廊下に立つ光景を見かけました。「ヤゴ救出大作戦」でプールから救ったヤゴがトンボに羽化した所のようなものでした。地域の方からご支援いただいたカブトムシの幼虫が成虫になったとの報告やカイコが繭になろうとしている話など、6月の学校には、上野動物園からのニュース(双子のパンダ誕生)に負けない新たな命を生み出す発見が続いています。この感動は実体験を伴ってこそ…、画面では味わえぬ“学び”です。

さて、6月は、様々なことに思いを巡らせ振り返って考える…そんな時間に恵まれた月になりました。

1日、本校の開校記念日です。翌週月曜の全校朝会では、開校当時のことや開校から44年の歩みの中から話題を選び、リモートで伝えました。これまでも、毎年この時期の朝会では学校の歩みに関わる話をしており、着任した年は“初代校長・横山博秀先生が校歌の作詞者であること”の紹介、2年目には“橋戸村と呼ばれた頃”の話や“橋戸と名の付く学校が先に二代あり、現在は三代目にあたること”等を話しました。そういえば、去年は…話した記憶がありません。なぜなら、去年の6月1日は臨時休業を終えた学校再開の初日、いきなり開校記念日でお休み…は避けようと判断し、分散登校を始めた時期ですから、その前後に全校朝会はありませんでした。学校再開、分散登校、午前授業、通常時程…と段階を踏んで進めてきた去年の6月に比べると、緊急事態宣言下、中学年の遠足は延期、土曜授業も公開なし、予定通りにプール開きはできず、クラブ・委員会やレインボー班など異学年の交流を伴う活動も宣言中は我慢…そんな6月ではありましたが、それでも今年の方が順調に教育活動を進められたように捉えています。

そんな中迎えた23日はオリンピック開会式ひと月前、その前後には、大会への期待感だけでなく、開催方法や観客の有無も含め報道も多くなり、様々な声が聞かれました。去年の7月23日夜8時、真っ暗な国立競技場のピッチに一人立つ池江璃花子選手の姿、ひと言ひと言紡ぎ出すように発せられた言葉に込めた思い、アスリートとして、大病を患った身として、そして1年後を夢見る一人の人として語られた「プラス1」のメッセージに、多くの人が心を揺さぶられたあの瞬間から、早1年がたとうとしていることを改めて実感する、そんな時間でもありました。

7月を迎えます。学校は1学期の締めくくりの月、20日の終業式を前に、学習のまとめや振り返りを丁寧に行い、6週間の夏休みに向け、指導や準備を進めます。いよいよ始まるオリンピック・パラリンピック、どう進められるのでしょうか。本校でも、何年もかけて“学び”を深め、子供たちも楽しみにしてきたビッグイベントですが、まだ見通しきれない現状であり、8月の最後に予定されている本校のパラリンピック観戦に関しても、まだ確実な情報は届かない状況です。

ところで、タブレット型端末の活用は各学年・学級で順調に進められ、“授業中何気なく使っている…”そんな教室の様子を多く見かけるようになりました。まさにツールとしての活用が進んできた証拠です。デジタルとアナログ、二者択一で良さを論じるのではなく、それぞれの良さを生かし合い、子供たちの未来につなげていきたい…と願う毎日です。